第2分科会

産学連携・地域連携を通じた大学教育を考える

報告者

- 高田 兼則 帯広畜産大学 生命・食料科学研究部門 教授
高澤 伸江 京都先端科学大学 バイオ環境学部 准教授
山内 剛 亀岡市 環境先進都市推進部 部長
間崎 涼花 京都府 政策企画部地域政策室 主事
田村 祥代 京都府 政策企画部地域政策室 協働コーディネーター
國府 美紀 京都府 政策企画部地域政策室 協働コーディネーター

コーディネーター

- 船附 秀行 京都先端科学大学 バイオ環境学部 教授

産学連携・地域連携を通じた大学教育を考える

コーディネーター

京都先端科学大学 バイオ環境学部 教授 船附 秀行

○本分科会のねらい

産学連携・地域連携は、大学での研究を進める上で不可欠なツールとなっている。一方で、近年、大学においてアウトカム基盤型教育が重視されるようになり、アクティブラーニングが積極的に取り入れられるようになったが、質の向上には、学生エンゲージメント、さらには教員エンゲージメントが重要とされている。その実現には、学生と教員が協働して取り組む産学連携・地域連携活動が格好の場であることから、本分科会では、そうした連携の実例をご報告いただき、実際の成果、さらには実施する上でのポイントや課題を共有することを目的とした。

○報告の概要

船附の本分科会の趣旨説明に続き、講演1として、帯広畜産大学教授、高田兼則氏から「帯広畜産大学および研究室における産学連携・地域連携の取り組み」と題した報告があった。帯広畜産大学は、十勝地域唯一の大学として、またその専門分野が地域の基幹産業である農業・食品分野であることから、地域からの期待が大きく、それに応える形で多様な方法で地域連携を実施していることが紹介された。例えば、「学生と地域がつながるまちづくり支援事業」では、在学中から卒業後までを見据えた学生と地域とのつながりの強化を目的とした「関係人口候補化プログラム」が実施され、行政、企業、地域団体等からの講師による「とち学」などの授業で地域の現状や課題、将来展望について学び、さらに、学生の自主的な地域活動を支援する仕組みとして、「ちくだいらんぶプロジェクト」等が用意されている。また、帯広畜産大学は産業界とのつながりも強く、北海道の酒造会社がキャンパス内に酒蔵を建設し、学生も参画して酒造りが行われたり、学生の卒業論文や修士論文の研究結果が地元の製パン店の新規商品開発に活用されたりしている。そうした取り組みでは学生が社会との接点を身近に感じることができ、モチベーションの向上が図られ、効果的なアクティブラーニングが実現されていることが報告された。

講演2では、京都先端科学大学准教授、高澤伸江氏および、亀岡市環境先進都市推進部長、山内剛氏から「学生の地域における活動事例～亀岡市における環境保全活動を通して～」と題して、環境先進都市・亀岡市の環境保全活動を大学と地域との連携で推進している事例の報告があった。まず、高澤氏から、京都先端科学大学の全学共通のリベラルアーツ科目から専門の卒業研究までの科目をうまく活用することによって、1年生から4年生まで視点や活動内容を変えながらシームレスで環境問題に取り組む事例が紹介された。PBL型授業において、1年生では、背景や課題を把握し、2、3年生では、ヒアリングや調査に基づき行政施策への具体的な提言を行い、4年生では科学的な視点から卒業研究に昇華させるのが典型的なパターンとされた。さらに、ボランティア活動を行ったり、環境関連の分析キットを産学連携で開発したりするなどの発展形もみられている。まさに学生エンゲージメントの高い活動になっている一方で、必修科目では、もともと興味を持たない学生にどのように積極的に関わらせる契機を与えるか、などの課題も挙げられた。山内氏からは、亀岡市の様々な環境関連の施策の中で、京都先端科学大学からの提言を積極的に採用し、PETボトル削減に向けたマイボトルの普及のため、企業・小売店と連携し市内に100か所を超える給水スポットを設置した事例が紹介された。さらに、同大学からの提案に基づき、かめおかプラスチックごみゼロ宣言の周知広報のため、若者をターゲットにしたPR動画を作成し、インターネット媒体を利用した広報の展開もしている。さらに、亀岡市では、京都芸術大学との連携の下、市役所地下レストランを改装し、誰でも自由に交流でき、「環境」にも配慮した多機能空間「開かれたアトリエ」をオープンしている。今後は多様な業種の企業も巻き込む形で、産学官連携により多彩な環境施策を推進する計画があり、そこでは学生からの提案が企業を介して社会実装される機会が増えるとともに、進路を考える上でもプラスになることが期待できる旨述べられた。

講演3では、京都府政策企画部地域政策室の間崎涼花氏、田村祥代氏、國府美紀氏から、「地域活動と大学での学び～京都府『学生×地域つながる未来プロジェクト』を通して～」と題して、学生が大学と離れたところで地域活動に参加している事例の報告があった。「学生×地域つながる未来プロジェクト」は、

NPO 法人などの地域活動団体と学生と一緒に地域を活性化するための活動を京都府がコーディネートするもので、学生に地域活動に関心をもってもらうことが目的の一つとされ、立ち上げ当初は、学生が団体の活動場所を訪れて実際に体験した。2年目は、コロナ禍のため、オンラインツールを活用した活動がメインとなった。そのことで本活動の裾野が広がることになり、3年目には、関東の学生も参加することになった。こうした活動において、日頃学生が触れることのない社会の一面を知る機会を与えることになった事例が報告された。4年目（2022年度）は、この活動に関する理解度も上がり、府が仲介する頻度を減らしても、参加学生と地域活動団体がうまく協働して活動している例が多くみられている。そうした活動の中で、学生がコーディネーターとしての役割を担うようになり、当プロジェクト終了後にも地域活動を継続する学生も育ったりしている。また、地域活動をベースにして、大学での卒業研究を行う、あるいは、地域活動を生かした就職を考えるようになるなど、大学での学びや就職に直接結びつく事例も紹介された。一方、地域活動団体も新たな目線からの意見をもらうことができたり、仲間が増えたりすることで活性化が図られていた。こうした地域活動を成功させる上で重要なのは、これに関わる多様な主体がお互いを理解するため対話を欠かさず、さらに、学生側もサービスや労働力を提供する意識ではなく、各主体が同じ方向を向いて協働し、一緒に創ることにあることが強調された。さらに、地域活動が学生の気づきにつながり、自ら調査、考察し、課題解決のアイデアを提案するという、まさにアクティブラーニングになっている事例の報告があった。将来展望として、学生が卒業後も地域との関わりを継続できる仕組みを検討している旨述べられた。

○報告に対する質疑ならびに全体討議の内容

全体討議の時間が短く、消化不良の面があったが、登壇者からは、豊かな経験に基づく、示唆に富む発言もあった。まず、帯広畜産大や京都先端科学大での地域連携のためのプログラムの正課科目としての位置づけに関して質問があり、帯広畜産大では、正課科目と課外活動の両方があり、京都先端科学大では、講演で紹介したものはすべて正課科目になっている、との回答があった。京都先端科学大では、近年リベラルアーツが重視され、そうした科目の利用もできることが補足説明された。続いて、山内氏に対して、学生の提案を行政で取り入れるプロセスについて質問があり、システム化された手続きはないが、学生の着想は重要と考えており、引き続き、PBL型授業に参画させてもらう形で積極的な連携を維持したい旨が述べられた。京都府の三氏には、学生の新たなNPO立ち上げへの支援体制について質問が寄せられ、学生向けに特化したものはないが、既存の仕組みを使って支援するようにしている、との説明があった。また、連携がうまく行かない場合の考え方について、山内氏からは、学生の自由な着想は重要で、たとえ実現困難な提案であっても、何かのヒントになることもあるので、できるだけ尊重している旨の発言があり、京都府からは、地域活動団体側の理解不足の場合は、趣旨をしっかりと説明したり、学生との仲介に入る密度を調整したりして、活動に対する理解を深め、関係改善に努めているとの説明があった。最後に、産学連携、地域連携の活動を成功させ、また効果的な学びの場とするには、学生、企業、地域、行政、教員等、すべての構成員がしっかりとコミュニケーションをとり、相互理解をした上で、共通の目標に向かって、協働することが重要であるとの認識が共有された。

スライド1

挑
×
選

2022 年度 第 28 回 FDフォーラム
第 2 分科会

産学連携・地域連携を
通じた大学教育を考える

2023年2月23日9:30-11:30

コーディネーター
KUAS 京都先端科学大学 船附秀行

スライド2

大学の研究面における産学連携・地域連携

大学 ← 技術シーズ → 企業
← 研究資金 → 地域

メリット

- 研究資金増強
- ニーズ把握
- 知財の活用
- etc.

メリット

- 研究開発費節減
- 知見・情報収集
- ネットワーク拡大
- etc.

スライド3

大学の教育面における産学連携・地域貢献

大学 ← 技術相談
公開講座 → 企業
← インターンシップ
機会の提供 → 地域

メリット

- 文科省方針（2008）への対応
- 教育の場の確保
- etc.

メリット

- 教育機会の拡大
- 人材の確保
- 若者の発想の取入れ
- etc.

スライド4

21世紀の大学教育の質的転換

「何を教えるか（Teaching）」 ➡ 「何を身につけるか（Learning）」
（中央教育審議会，2008）

アクティブラーニングの積極的活用

アウトカム基盤型教育
（Outcome-Based Education）
（Spady, 1994）

重要なのは「教員のエンゲージメント」

学生エンゲージメント
重視教育
（山田，2018）

教員・学生が協働する
産学連携・地域連携活動の活用が効果的では？

スライド5

本分科会のねらい

講演1 大学における多様な地域連携例，企業との連携
講演2 学生と行政の連携の具体例
講演3 教員が関わらない学生と地域との連携

- 学生・教員の参画する産学連携・地域連携活動の実例を知る。
- 教員が直接関わらない学生の地域連携活動の実例を知る。
- その成果（教育面，活動自体）を把握する。
- 運営上の課題を共有する。
- 教育に（も）効果的な産学連携・地域連携の実践方法を考える。

スライド1

帯広畜産大学 2022.2.23

第28回FDフォーラム 第2分科会

帯広畜産大学および研究室における
産学連携・地域連携の取り組み

生命・食料科学研究部門
高田兼則

スライド2

スライド3

帯広畜産大学の企業連携の取り組み

国際安全衛生基準適応の実習環境による人材育成を推進

畜産フィールド科学センターでは、世界最高水準の国際安全基準認証(FSSC22000)を取得した乳製品工場の実績に基づき、同施設を活用したHACCP講習など人材育成を推進するとともに、食品加工事業所のHACCP導入支援を行い、平成27年度には3事業所が北海道HACCPの認証を受けました。また、産学連携センターでは、インキュベーションオフィスに入居する食関連企業の数を増加させ、実践的な共同研究を推進するとともに、企業の実務家教員による実践的な講義・実習を行っています。

3

スライド4

帯広畜産大学の地域連携の取り組み

帯広畜産大学は道外出身者が6~7割を占め、十勝への理解や地域との関わりが少ないまま卒業する学生も少なくない。

帯広市や関連機関と連携し、在学中から卒業後までを見据えた学生と地域とのつながりを強化することを目的として「学生と地域がつながるまちづくり支援事業」を実施。

1 学ぶ
2 知る
3 活動する
4 貢献する

卒業後も十勝の応援団としてつながり続けます

学びを実践し、地域の活性に貢献します

4

スライド5

「関係人口候補化プログラム」

学生が十勝について学び、理解を深めることで、地域への興味や関わりを持ち、自主的に十勝とつながるきっかけづくりを目指す

十勝について学ぶ地域連携型授業の実施
とち学
十勝の歴史、文化、自然、産業、地方創生などについて、行政、企業、地域団体等から講師を招き、十勝の現状や課題、将来展望について学びます。本授業は市民開放授業として一般の方も受講が可能です。

現場を深く知る課外教育の実施
とち学旅
北海道中小企業家同友会とち支部と連携し、主に新入生を対象に、農畜産物の生産から加工まで一連の現場を巡るバスツアーを実施しています。農業・企業経営者の方の取り組みや想いを実際に現場で見聞きすることで、十勝の産業への理解を深めます。

経営者とガチで学ぶ交流会×勉強会
北海道中小企業家同友会とち支部と連携し、十勝の経営者の方々がやっている勉強会に学生が参加できる機会を提供し、社会人と同じ目線で学び・意見を交わすことで、互いに様々な刺激を受けながら交流を深めます。

5

スライド6

「アクション支援プログラム」

学生が企画・実施するまちづくり活動を支援することで、地域愛の醸成や新たな視点からの地域活性化を図る

地域活性化に向けた自主的活動の支援
ちくだいらんぶプロジェクト

「学生のチャレンジ」をキーワードに、学生が十勝を元気にするために企画した様々な取組を支援する帯広畜産大学×帯広市のプロジェクトです。

文化・スポーツコース (愛称: みんなのちくだい)
おびひろ動物園活性化コース (愛称: ずーぶろ)
地方創生・地域活性化コース (愛称: とちチャレ)

地域産業の活性化支援
学生と地域企業の共同研究
学生が教員の指導の下、地域・企業のニーズや課題を踏まえ、地元企業等と共同研究を実施します。

6

スライド7

■地域をどんどん盛り上げる～地域交流

一般財団法人帯広市文化スポーツ振興財団との連携事業。
畜大生サークルが主体となって文化やスポーツを通じて地域の人たちとの交流を図るイベントを企画実施しています。「熱気球にふれてみよう！乗ってみよう！」「畜大陸上部の走り方教室」「わくわくカーリング体験」「ダチョウの羽のストラップを作ろう」など、楽しい内容が盛りだくさん。

7

スライド8

■大学から生まれたオリジナル商品～サークル活動

畜大で飼育されている乳牛の搾乳は、学生サークル「うしぶ。」が担っています。入部希望者は半年間しっかり訓練を受け、365日、毎日朝5時から搾乳作業をしているのです。こうして搾られた生乳は、「畜大牛乳」や「畜大牛乳アイスクリーム」として商品化され、大学生協や地元スーパーなどで販売されています。幅広いファンも多いのだとか。

8

スライド9

**■本学農業サークル「あぐりとかち」が
農林水産大臣賞を受賞**

東京六本木ヒルズで行われた農林水産省主催の「食と農業漁業大学生アワード2015」で「あぐりとかち」が、地元企業、農家の協力を得て、各大学の農業サークルに参加している道外大学生16名を招いて、初めて取り組んだ「十勝農業合宿ツアー」や10月から12月までの月2回、帯広の飲食店の店舗を借り、自分たちが考案した料理を提供した「サイエンス農（あぐり）カフェ」など十勝の農業の魅力を発表し、道内大学では初めての農林水産大臣賞を受賞しました。

「とかち」のボースと参加学生とあぐりとかちのメンバー

湯屋商店とのハロウィン向け商品開発(2022年)

出典) 十勝毎日新聞

9

スライド10

馬介在活動室（帯広市との連携事業）

障がい者乗馬体験事業
適応指導教室ひろびろ 馬の総合体験学習

ホースセラピー

「馬介在活動室が北海道福祉のまちづくり賞を受賞」

馬介在活動室の取り組み「人と馬の絆による教育・研究・社会貢献活動」が、令和2年度北海道福祉のまちづくり賞を受賞しました。
馬介在活動室は平成26年に設置し、障がい者への乗馬体験事業（社会貢献活動）を中心に、障がい者雇用に関わる教職員及び学生への技術指導（教育活動）、障がい者に適した乗馬の生産に関する研究（研究活動）など、積極的に活動を展開しています。

このたびの受賞は、昔から十勝地域で身近な存在である「馬」と「人」の絆をもとに、教育や研究といった大学の特色を活かしながら、障がいのある方への支援活動を実施していることが総合的に評価されたものです。

▲馬介在活動室の事業に協力する学生達

10

スライド11

■JICAと連携して南米パラグアイ国に学生を派遣～海外展開

2012年度から在学生・卒業生をJICA青年海外協力隊の長期隊員（2年）、短期隊員（2ヵ月）として南米パラグアイ国に派遣する「帯広-JICA協力隊連携事業」をスタート。パラグアイの小規模農家を対象に、家畜の飼育管理、衛生管理、繁殖管理の技術向上のための支援および経営指導を行っています。現地の生活水準の向上および酪農の発展、さらには製菓・農産産分野における国際協力経験を通じたグローバル人材の育成が目的です。

出典) ワークワークとから

11

スライド12

最近の取り組み

「学生の酒造りプロジェクト」 碧雲蔵（上川大雪酒造(株)）

本学学生が碧雲蔵において実際の醸造を現場で学び、自身の研究に生かすことを目的としたもので、同酒蔵の川端慎治総社氏（本学客員教授）と山根桃華社氏補佐（大学院博士後期課程1年）の指導のもと、学生が仕込みから醸造の工程に一切から携わり、酒造りが進められました。

完成した本学オリジナル日本酒「純米吟醸 碧雲」を手にする
菅原聖之准教授、高山さん、酒井さんと川端総社氏

米麹造り、酒母造り、酛造り、上槽、瓶詰め工程を社氏の指導のもと実施（インターシップ研修の位置付け）

12

スライド13

研究室での取り組み

共同研究による新商品 (2015年) (湯種全粒粉食パン、WA(わ)ドーナツ)を開発

十勝産小麦を原料としたパンの高品質化を目的として、本学山内宏昭教授と(株)満寿屋商店との共同研究により、4月には本学大学院修士課程1年の松下耕基さんと満寿屋商店の職員により「湯種全粒粉食パン」を商品化し、9月には、松下耕基さんと畜産科学課程4年の寺山采花さん及び満寿屋商店の職員により小麦に大量の水を加え、おかゆのような状態にして炊いたものを製パンに使用する「炊き種製法」により新食感のドーナツを開発し、商品化しました。

湯種全粒粉食パンの記者発表

“WA”ドーナツ
“WA”ベーグル

炊き種製パン法 (特許出願)
「炊き種」商標登録

13

スライド14

修士課程食品科学専攻2年五嶋大介さんが (2020年) 株式会社満寿屋商店との共同研究により商品を開発

五嶋大介さん(修士課程食品科学専攻2年)は2年前の株式会社満寿屋商店(ますやパン)との共同研究により開発された、特許製法の発酵種「わさび種」と「炊き種」を利用し、生地種にマッシュポテト等を加えた発酵種を開発しました。

テーマは「甘くない食パンを作る」とし、種の糖分はマッシュポテトのみで、通常材料の砂糖は加えていません。また、開発した発酵種を加えることにより、グルテンが通常よりも強くなりもちもち感のある食感と口溶けの良さを実現し、新商品「トーストブレッド」をますやパンと共同で発表しました。

「トーストブレッド」は、ますやパン麦首で販売が開始されています。五嶋さんは「実際に店頭で並ぶ商品開発に携わることができ大変楽しく思います。」と喜びを語りました。

五嶋さん、満寿屋商店 開発担当 佐々木さん、総務部 嶋井さん (左から)

14

スライド15

本年度、学生が取り組んでいる共同研究

- ・株式会社ニッポン
- ・DSM株式会社
- ・農研機構、山本忠信商店

包括連携協定

- ・敷島製パン株式会社

15

スライド16

「とち夢パン工房」

16

スライド1

学生の地域における活動事例
～亀岡市における環境保全活動を通して～

2023年2月23日
大学コンソーシアム京都FDフォーラム
京都先端科学大学
バイオ環境学部 高澤(笠松)伸江
✉ takasawa.nobue@kuas.ac.jp
亀岡市 環境先進都市推進部 山内 剛
✉ kankyo-soumu@city.kameoka.lg.jp

スライド2

環境先進都市・亀岡

京都府亀岡市:
人口 87,228人(@2022.9.1)
京都駅から快速21分、特急の停車駅
京阪神の大都市近郊にありながら
豊かな自然に囲まれる
京野菜、保津川下り、アユモドキ...

2018年 かもおかプラスチックごみゼロ宣言
2019年 世界に誇れる環境先進都市かもおか協議会
2020年 亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例
2021年 条例施行

第2分科会

スライド3

亀岡市の環境問題に関する施策(海ごみ、資源循環、脱炭素...)

授業等への取り入れ事例

1年 スタートアップゼミ(学内PBL型授業)：身近な問題を掘り下げて、自分事として考える
(テーマ例)・SDGsを達成するために日本国内で自分たちが何をすればよいか。
・亀岡市2030年使い捨てプラスチック削減目標達成に向けた、プラスチックごみ削減問題を解決する方策を生み出す。

2, 3年 実践プロジェクト・探求プロジェクト(学内PBL型授業)、ボランティア活動：
現地調査、社会活動への参画
●亀岡を『世界に誇れる環境先進都市』にするため、亀岡市の施策をより深く、推進するような具体的な内容の提案や啓発活動を提案する。・大学のごみを減らしたい～大学のごみの現状、マイボトル・マイ水計画～
●映画『マイクロプラスチックストーリー』日本語吹替え原案制作ボランティア
●オーガニクス展のイベント運営/活動成果展示・オーガニクス展運営補助・収録補助
●自主勉強会イベント参加
●ボランティアチームでのmymiaチャレンジ(亀岡市)参加・地元NPO主催 環境イベントへの参加・ごみ調査補助・ごみと生態系に関する研究補助

4年～ 卒業研究：周りを巻き込む、産学官連携、社会活動への参画
●保津川支流 河川漂着ごみ・マイクロプラスチックの実態(亀岡市調査に同行)
●河川におけるマイクロプラスチック・農場由来のマイクロプラスチックの動態
●微生物とプラスチックごみの関係
●マイクロプラスチック簡易観察キットによる分析方法の確立

共同研究
(日本生命財団環境問題研究助成、クリア水・環境科学振興財団助成、日本学術振興会学術知創プログラム、先端大共同研究助成 等)

スライド4

取り入れ事例 実践プロジェクト(2年生春学期:オンライン)KUAS
＜高澤班テーマ＞

亀岡市では、自然環境の保全と地域経済の活性化に一体的に取り組む『世界に誇れる環境先進都市』の実現をめざし、様々な取り組みを行っている。
その取り組みの一つに、亀岡市と亀岡市議会が平成30年に「かもおかプラスチックごみゼロ宣言」を行ったことが挙げられる。令和2年3月には、「亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」が市議会会で可決され、来年1月1日からレジ袋の提供が有償無償を問わず禁止になる。(テーマ①)

一方で、使い捨てプラスチックごみに限らず、「ごみを出さない地域社会」の考え方を基本とした「亀岡市ゼロエミッション計画」も策定されている。この計画では、徹底した廃棄物の発生抑制、再使用の機会を創ることにより人と環境にやさしい資源循環型の地域社会づくりを目指している。(テーマ②)

いずれの取り組みにおいても、実現のためには、消費者・事業者・住民・一時滞在者が取り組みやすい、実行可能な具体的施策と啓発活動が必要である。
そこで、今回の実践プロジェクトでは、亀岡市市役所の皆様のご協力のもと、亀岡を『世界に誇れる環境先進都市』にするため、亀岡市の施策をより深く、推進するような具体的な内容の提案や啓発活動を提案することを目標とする。最終的に、亀岡市環境市民部にご自分たちのアイデアをプレゼンする。

スライド5

取り入れ事例 実践プロジェクト(2年生春学期:オンライン)KUAS
＜スケジュール＞

- ① 大テーマ決め(デザイン学科3教員が提示するテーマから選択)
- ②③ ガイダンス、日程提示、テーマに関する基礎知識を身につける
(資料提示:亀岡市環境基本計画、亀岡市HP等)
- ④ 基礎知識: 動画配信: 一般廃棄物最終処分場の様子
- ⑤ 専門家のお話を聞く(ライブ配信: プラごみゼロ宣言について
亀岡市環境市民部環境政策課 ご講演)
- ⑥ 専門家のお話を聞く(ライブ配信: 亀岡市ゼロエミッション計画
亀岡市環境市民部環境クリーン推進課 ご講演)
- ⑦ 自分の意見・提案・根拠をまとめる(ライブ授業・課題)
- ⑧ 個人発表、発表内容に関するコメント(ライブ)
- ⑨ 個人発表をもとにチーム分け。チームごとに課題決定(ライブ)

スライド6

取り入れ事例 実践プロジェクト(2年生春学期:オンライン)KUAS

- ⑩ チーム活動(チームごとにオンライン): 計画立案、調査・考察
- ⑪ 中間発表①(ライブ授業: パワポ発表、ルーブリック評価)
- ⑫ 中間発表に対するフィードバック(ライブ)、修正(チームごと)
- ⑬ 中間発表②、提案書提出
- ⑭ オンライン発表会(亀岡市の皆さんに提案、評価・コメントをもらう)
- ⑮ 学科全体発表会(ポスター)

スライド7

関連する話題を提供いただいた方々

亀岡市ゼロエミッション計画	亀岡市環境市民部環境クリーン推進課
プラスチックゴミゼロ宣言	亀岡市環境市民部環境政策課
京の川から世界をみる～河川漂着ごみの課題と地域連携	保津川遊船企業組合 代表理事
何度も使える天然ラップ～楽しくエコを	aCo wrap(アコラップ)、KIRI CAFE
環境ベンチャー、ごみ分別、エネルギー問題	NPO法人木野環境

授業横断型:
 スタゼミ — 日本語リテラシー — バイオ環境と社会のつながり

※バイオ環境学部基礎科目(選択)
 課題提示・調べ学習 まとめる・書く 実情を知る・社会で課題解決に当たっている人から話を聞く

スライド8

PBL型授業中・後の学生の声

- ・レジ袋有料化に反対だったが、河川ごみの実情を知って考えが変わった (スタートアップゼミ:1年秋)
- ・亀岡市のプロジェクトに参加して自分の力がついた(実践プロジェクト:2年春)
- ・工学部と共同でおもしろい分別ごみ箱を作れないか(実践プロジェクト:2年春)
- ・(現場調査にて、小学校1年生の女の子が川ゴミ中のタバコを見て、「大人が川をズズタにしている。このごみが、次の街をまたズズタにすんだよね」と言ったのを聞いて...)タバコやめようかになって、一瞬思っちゃいましたもん...(卒業研究:4年秋)
- ・課題が多すぎる(実践プロジェクト:2年春)
- ・(「ごみの分別」に関する課題に取り組んで)学費払ってるし、大学がごみの処理してくれるのは当然と思ってしまう。そんなに意識高い人あんまりいない(探求プロジェクト:2年秋)

スライド9

学習したことを活かして

世界中の映画館で入場 観客の心を震わす中

プラスチック削減の取り組みを学ぶ！
マイクロプラスチックストーリー
 ほくらが作る2050年

日本発祥映画
 KUAS亀岡キャンパスでの
ボランティア
 急募!!

2023年8月5日 - 27日 7月15日 - 18日を申込締切予定

スライド10

【マイクロプラスチックストーリー】
 「ごみアート」担当の学生は目の前のペットボトルの山を見て驚きを隠しませんでした。京都亀岡キャンパスでは、1ヶ月に大塚のごみ袋30袋分のペットボトルが回収されているそうです。

スライド11

【マイクロプラスチックストーリー】
 #KUAS #MPS team #MPS Ambassador
 開催【マイクロプラスチックストーリー】の本展覧会が本学で行われています！今日は特別、亀岡市市長が本学を訪問し、ごみ問題について話されました。

【マイクロプラスチックストーリー】
 #KUAS #MPS team
 1 オープン会場での大学生の #SDGs 取り組み紹介コーナーですが、今日の一人はなんと亀岡市市長の学生による #SDGs 取り組みに関する発表でした。

【マイクロプラスチックストーリー】
 #KUAS #MPS team
 実名前の一文字が一緒な二人、全部自然のものでできた名札に感動してくれました。

スライド12

2050年に1海里にあるプラスチックの運ぶが、海の豊かさをとるために

スライド13

卒業研究：
地域の人とともに活動する、さらに先の研究へのつながり **KUAS**

河川のモニタリング調査を行っています

ページID：0002776
2022年3月4日更新
適宜ページを改定

保津川に流れ込む河川ごみのモニタリング調査を実施しています。

保津川に流れ込む河川ごみの実態を把握するため、今後の河川ごみ発生抑制対策を効果的に実施するため、河川モニタリング調査を市内5河川（千々川、大御川、雑水川、年谷川、西川）で実施しています。
令和2年8月から各河川にダストフェンスを設置し、1か月間の試行後、毎月の調査結果を情報発信していきます。
使い捨てプラスチックごみゼロのまち実現に向けて、河川ごみの実態を知ることで、自分たちにできることを考えていきましょう。

亀岡市HPより 2/10

スライド14

卒業研究・ボランティア：
地域の人とともに活動する、さらに先の研究へのつながり **KUAS**

卒業研究・ボランティア：河川ごみ調査 (2021年9月15日)

【#河川ごみ調査 Sep 15】
調査を開始してちょうど1年
亀岡市役所や #NPO プロジェクト保津川、#銀行南校の皆さんと一緒に
行ったごみの総数は12,000個を超えた。
ごみの量にはつきりした減少傾向は見えないけれど
ごみを意識する仲間が増えている

#保津川
#川ごみ
#河川環境
#学生情報発信

2020年度 2021年度 2022年度

発泡スチロールの破片
ポリ袋
タバコの吸い殻・フィルター

※2020年度は週に一度で採取を行った。

1/6 3/24 12/1 3/23 11/2 1/31

1/4/10

スライド15

(卒業研究例) なぜタバコのごみが多いのか? **KUAS**

→GIS(地理情報システム)を使った漂着ごみの流出要因解析
→流域ごとに流出要因を数値化・分析 (岡崎, 2021)

道路の割合とタバコ総数

道路の長さより込み具合(総延長より密度)
道路が入っている地域でポイ捨てされて、それが保津川に達する

1/4/10

スライド16

(卒業研究例) 雑水川漂着ごみ時系列変化 **KUAS**

(2020年9月~2023年1月) (舟山, 2023)

減少傾向

700
300

2020年度 2021年度 2022年度

1/6 3/24 12/1 3/23 11/2 1/31

※2020年度は週に一度で採取を行った。

1/5/10

スライド17

卒業研究・サイエンス学科 **KUAS**

【#河川漂着ごみ調査 May 11】
#保津川 支流の#川ごみ調査。河川敷に魚卵のようなものを発見！よく見てみると...#板敷肥料！肥料の利用効率向上のため、#肥料をプラスチックの殻で包んだものです。農業用水を通じて河川・海洋に流れることが報告されています。
#デザイン学科 #サイエンス学科

1/6/10

スライド18

産学連携も **KUAS**

マイクロプラスチック簡易分析キット
企業との共同開発
株式会社堀場テクノサービス
『MPs簡易学習キット ぶらウオッチ』

1/7/10

スライド19

亀岡市での成果発表、ワークショップ展示
 @地元NPO主催イベント（環境フェスティバル、映画上映）

KUAS
 KYOTO UNIVERSITY OF ADVANCED SCIENCE

京都先端科学大学バイオ情報学部 12/25
 富野がりを追記！ 主催：NPOプロジェクト保津川

【#マイクロナスチックストーリー #KUAS
 #NPO team】
 今日は亀岡市役所にて「みんなで作る 環境フェスティバル」。
 映画の上映をメインに、様々な企業や行政、大学のワークショップが行われました。先導大からはタラコワの葉の名札作りやがらつオツ子の展示、ポスター発表を行いました！

市販の塩さんも実際に研究のため採取した#マイクロナスチックやあらのつオツ子。研究内容にも興味深々♪

皆さんの期待に応えるべく日頃の勉強の成果を発表！

イベントに参加していた企業や大学と交流しました。

#環境フェスティバル #SDGs

8/10

スライド20

学生と市政の関わりによる効果

KUAS
 KYOTO UNIVERSITY OF ADVANCED SCIENCE

- ・4年間を通じた学びが可能。
 1年生：取り巻く問題を知る：自分の選択で未来が変わることの理解
 2年生：身の回りで実践してみる、自分を活かす
 3年生、4年生：周りを巻き込む、産学官連携する
- ・学生自身のアイデアが市政やイベントで活かされる達成感
 →学生の自信
- ・自分の大学の街を知るきっかけ → 自分の街を考えるきっかけ
 →市民意識の醸成（自分の街でも）
- ・市政を通じて人とつながること→社会の仕組みを知る
 →行政への関心、地域の活動（大人）への関心
 →行政・大学の街やNPO、連携企業への就職

9/10

スライド21

学生が地域に関わる際の課題

KUAS
 KYOTO UNIVERSITY OF ADVANCED SCIENCE

- ・外部と関わりたいと思う学生は多いが、興味を持たない学生はいる。学生が自分ごととして関われる・学生を本気にさせる工夫が必要（→そうでなければ、行政への負担が大きい）
- ・興味のない学生も、“授業”なら取り組む。
 →環境問題意識をもった市民の育成
- ・授業だけだと4か月。興味がある学生でも、大学だけだと4年間。その後も地域に関わっていくような人材の育成。
- ・大学（学生）が意見を言いやすく、試してもらいやすい
 “ちょうどよい「地域」の規模”がある。
- ・科学的な協力（“理学的な”研究を市政にどう生かすか。）
 伝えるためにも普段からパイプ作りの必要がある。

2 0/10

スライド22

スライド1

環境政策をベースにした
地域連携の可能性について

亀岡市環境先進都市推進部長 山内 剛

0 世界に誇れる環境先進都市・亀岡市 1

スライド2

PBL型学習授業「実践プロジェクト」から
「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」に関する提案事例

①PETボトル削減に向けたマイボトルの普及

- 水道直結タイプの浄水機能付きウォーターサーバーの設置
- 市役所、道の駅、駅、スタジアムなど利用者の多い施設への給水スポット設置
- 企業・小売店と連携した新しい生活形態の提案

亀岡の美味しい水プロジェクトの展開

給水スポット

- 公共施設及び市内全小・中、義務教育学校、高等学校 36箇所
- 協力店舗等 65箇所
- 【計101箇所】

0 世界に誇れる環境先進都市・亀岡市 2

第2分科会

スライド3

PBL型学習授業「実践プロジェクト」から
「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」に関する提案事例

①かめおかプラスチックごみゼロ宣言の周知広報

- 若者をターゲットにしたPR動画の作成
- ネット媒体を利用した広報
- スーパーマーケットでの呼び込みPR

BRITA Japan様との環境教育から新たなPR動画の制作

市内の高等学校2校による成果報告会で発表、制作された動画は広く発信

※残念ながら当プロジェクトでは動画作成までには至らなかった。

0 世界に誇れる環境先進都市・亀岡市 3

スライド4

「河川ごみモニタリング調査（卒業研究）」での
地域連携による付加価値の向上

河川モニタリング調査の活用可能性拡大～市保有データとの重ね合わせ～

ボイ捨てごみゼロプロジェクトとの連携
令和4年11月末時点で6,539件のデータを収集

0 世界に誇れる環境先進都市・亀岡市 4

スライド5

亀岡市の地域連携の事例

KIRI CAFÉ 2018年8月～

古民家を京都造形芸術大学の学生と一緒に改修し、かめおか霧の芸術祭の拠点としてオープンした交流スペース。

0 世界に誇れる環境先進都市・亀岡市 5

スライド6

亀岡市の地域連携の発展事例

エコバッグ普及へ ～「環境×芸術」KAMEOKA FLY BAG Project～

巨大エコバッグを解体し、世界に一つのエコバッグを作るワークショップを開催
200名の市民が参加した。

JR亀岡駅北広場に現れた
巨大エコバッグ2019年7月

0 世界に誇れる環境先進都市・亀岡市 6

スライド7

亀岡市の地域連携の発展事例

エコバッグ普及へ ~HOZUBAG生産拠点を整備(2021.3)~

古民家を改装した拠点施設

作業場の様子

全国から集められたパラグライダー生地

商品化されたHOZU BAG

古民家を改装したHOZUBAG生産拠点を整備。環境への取組が新たな雇用を生んだ。

0 世界に誇れる環境先進都市・亀岡市 7

スライド8

亀岡市の地域連携の事例

SDGsモデル事業として「開かれたアトリエ」をオープン(2021.4.14)

- ▶京都芸術大学との連携協定により学生にも参加いただき整備
- ▶市役所地下レストランを改装
- ▶誰でも自由に交流できる、「環境」にも配慮した多機能空間
- ▶様々なワークショップや展示を開催
- ▶9時から17時まで、土日祝も自由に利用可能

0 世界に誇れる環境先進都市・亀岡市 8

スライド9

亀岡市の地域連携の今後の可能性~産学官の連携へ~

とらにまきる
O
つらこみゼロ

環境教育: SoftBank, ユニクロ, UNI QLO, BRITA

マイボトルPET削減: mymizu, WATER STAND, POKETLE. ONLY THE NECESSARY DESIGN WORKS ANICIENT

資源回収: 日本紙業有限会社, ELEVEN, JEPLAN

取組連携: TIGER, KANEKA, CAINZ, economit

0 世界に誇れる環境先進都市・亀岡市 9

スライド10

亀岡市の地域連携の今後の可能性~産学官の連携へ~

事業者名	締結日	取組内容
ソフトバンク株式会社	R1.10.30	教育分野、環境分野における連携
株式会社ユニクロ亀岡店	R2.3.13	市内中学校における環境教育の実施
BRITA Japan株式会社	R2.6.30	ペットボトル削減に向けた取組の連携
(一社)Social Innovation Japan	R3.4.9	マイボトル普及拡大によるペットボトル削減の取組
ウォータースタンド株式会社	R3.6.3	マイボトル普及拡大によるペットボトル削減の取組
株式会社DESIGN WORKS ANICIENT	R3.6.22	マイボトル普及拡大によるペットボトル削減の取組
日本紙業有限会社	R3.7.27	資源回収拠点の拡充等の取組連携
タイガー魔法瓶株式会社	R3.7.28	ステンレスボトル回収モデル事業の取組
株式会社カネカ	R3.11.25	生分解性の袋の活用方法検討・研究
株式会社カインズ	R3.12.3	連携による環境配慮の取組
株式会社セブン・イレブン・ジャパン	R4.1.24	ペットボトル回収機の設置、リサイクルの取組
日本環境設計株式会社	R4.2.17	ケミカルリサイクル推進の取組
株式会社斗々屋	R4.5.13	ごみを出さない暮らし、社会に向けた取組

0 世界に誇れる環境先進都市・亀岡市 10

スライド1

スライド2

本日は話すテーマ

1. 「学生×地域つながる未来プロジェクト」の概要
2. 多様な主体と協働する上で大切にしてきたこと
3. 地域活動と「大学での学び」を繋げることの重要性

第2分科会

スライド3

学生×地域つながる未来プロジェクトとは…

スライド4

京都府 政策企画部 地域政策室 府民協働係とは…

NPO等地域で活動する団体の支援

- ◆ 特定非営利活動法人(NPO法人)の認証・監督等
- ◆ 地域課題の解決に取り組む非営利団体の支援 (「地域交響プロジェクト」)

スライド5

地域活動団体の現状

- ◆ 地域活動団体の担い手の高齢化・不足等により、自治会等の地縁団体だけで地域の課題を解決することが困難
 ⇒ 新たな担い手の参画促進や他団体との協働を推進することが必要
- ◆ 財源や人材確保に関するノウハウを持ち合わせ、自立した活動を展開できる団体があまり育っていない。

スライド6

「地域交響プロジェクト」での支援

地域課題の解決に向けた活動が継続して実施できるよう支援するプロジェクト

- ◆ 地域活動に対して、より多くの周辺住民から相互に協力が得られるよう「住民協働」の関係づくりを支援
- ◆ 住民協働による地域活動だけでは解決が困難な地域課題については、先進性や専門性を有する他団体や市町村、京都府等との連携・協働により解決方法の質を高める。

スライド7

「地域交響プロジェクト」での支援内容

資金面での支援

- ◆ 地域交響プロジェクト交付金

伴奏支援

- ◆ パートナーシップ・ミーティング（団体相互や行政など多様な主体の関係性を築く場）
- ◆ 専門家派遣事業（専門家や先駆の実践者を団体に派遣してアドバイス）
- ◆ N極アカデミー塾（継続的に地域活動をするための知識習得と実践のための塾）
- ◆ 活動の支え手との関係づくりセミナー（地域活動の支援者となる「支え手」との関係づくりを通じて団体の組織基盤強化を学ぶセミナー）
- ◆ **学生×地域つながる未来プロジェクト**（学生と地域活動団体の協働関係構築のきっかけづくり） など

スライド8

「学生×地域つながる未来プロジェクト」とは・・・

地域活動団体 ↔ 京都府 KYOTO ↔ 大学生

大学生と一緒に取り組みたい！
地域活動やボランティアに興味がある！

京都府が大学生とNPO等の地域活動団体をマッチング

↓

大学生と団体がひとつのチームとなり、一緒に地域活動を行うプロジェクト
(令和元年度から実施)

スライド9

「学生×地域つながる未来プロジェクト」はなぜ実施しているの？

大学生が多いという京都府の強みを活かし、大学生と地域活動団体がひとつのチームとなり、一緒に地域活動を行う。

↓

- ◆ 地域活動に対する若年層の共感を高めて、地域活動に「**新たな担い手**」を呼び込む。
- ◆ 地域活動団体がボランティア等を受け入れるための体制強化

スライド10

これまでの参加団体
※順不同、複数年度にわたり参加している団体あり (延べ19団体)

団体/商店名	団体概要
さんさん山紙	異業連携の事業所
豊田物工業	物の修理・製品加工、イベント開催
NPO法人happiness	子ども食堂、高齢者の居場所づくり
認定NPO法人フォーラムひこばえ	コミュニティセンター、児童館、視覚支援事業所等
NPO法人セオトップネットワーク事務所	登山検定活動
認定NPO法人アソビセンター	ドラッグストア、動物介抱塾、ペットと防災啓発
山川まちづくり協議会/CoCoしらかわ	地域活性化に向けたイベント企画、開催
花菱ワンダーランド実行委員会	ターゲット・ワークショップを含む「花菱ワンダーランド」の開催
森へのパスポート	森林の魅力開発、イベント開催
NPO法人プロジェクト倶楽部	神津川の清掃イベント、「はづがわチャリティ・ファンラン」の開催
奈良本郷芸術家会	自主企画の映画制作、ラジオでの情報発信
NPO法人丹波漆	丹波漆の発信・PR
鏡の輝	鏡製作の習熟活動、竹を使用したイベント開催
京都府地域アセット・創発3次元データ等を活用したまちおこし研究会	地域の資産・人材・創発3次元データ等の情報を活用した地域課題の解決
外国人女性の会/ベルヨン	日本在住の外国人女性の生活サポート
3up5	新大宮商店街の魅力発信、イベント開催
新大宮商店街	-
筑山中央センター商店街	-
築港・むらかみプロジェクト	お土産をDIYして地域のコミュニティを制作

スライド11

これまでの参加学生
(延べ31大学、158名)

大学別人数(人)

※複数年度にわたり参加している学生は複数にカウント

スライド12

これまでの参加学生

学年別人数(人)

※複数年度にわたり参加している学生は複数にカウント

スライド13

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
(令和元年度)

- ◆ 27名の大学生と6つの地域活動団体が参加
- ◆ 大学生が団体の活動場所を訪れて、実際に活動を体験することがメイン
(新型コロナウイルスの影響で、年度末には多くの活動が中止になった。)
- ◆ 団体が所有するSNS・ブログで参加学生が感想等を発信
- ◆ 令和元年度の成果報告ホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiiikokyo/gakusei/r1_gakusei_houkoku.html

スライド14

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
(令和2年度)

コロナ禍で対面での活動が難しい!

- ◆ コロナ禍でも地域課題がなくなったわけではない!むしろ課題が多様化!
- ◆ コロナ禍でオンライン媒体が広く普及
- ◆ コロナ禍で遠出を避けて近場で生活する人が増加

↓

SNSやZoom等オンラインを上手く活用することで、より多くの人に「地域」に目を向けてもらえる機会になるのでは?

スライド15

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
(令和2年度)

キミはwithコロナ時代に何をやる?
#100万人へ発信実験 START!

- ◆ 23名の大学生と8つの地域活動団体が参加
- ◆ 新型コロナウイルスの影響により、大学生がオンラインで団体にインタビューして、その内容や感想等を大学生が本プロジェクトのSNSに投稿することで情報発信
- ◆ 「#100万人へ発信実験」をテーマに、大学生の投稿を拡散させることで、同世代の若年層に、地域における課題や地域活動について、関心を持ってもらう機会を創出

スライド16

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
(令和2年度)

オンライン化でプロジェクトの幅が広がった!!

- ◆ 投稿の拡散のみに協力するボランティアを「指先ボランティア」と称し、多様な関わり方ができることを明示したことで、年代や居住地など関係なく、多くの人が本プロジェクトに関わることができるようになった。
- ◆ オンラインでの活動が可能となったことにより、令和3年度から遠方の大学生も本プロジェクト参加可能とする契機になった。
(令和元・2年度は京都府内在住もしくは府内の大学に通う大学生が対象だった。)
- ◆ 令和2年度の成果報告ホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiiikokyo/gakusei/gakusei_column.html

スライド17

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
(令和3年度)

さあ、地域への扉を開けよう!

- ◆ 38名の大学生と7つの地域活動団体が参加
- ◆ 大学生が団体の活動現場を訪れる対面での活動と、Zoom等を活用したオンライン活動が両方実施できるようにした。
⇒ 初めて遠方(関東)から大学生が参加
令和3年度に関東から参加した大学生のインタビューホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiiikokyo/gakusei/r3_houkoku.html#arai

スライド18

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
(令和3年度)

- ◆ 令和3年度の成果報告ホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiiikokyo/gakusei/r3_houkoku.html

スライド19

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
(商店街編 令和4年1月～12月)

- ◆ 17名の大学生と3つの商店街が参加
 - ・3upS (新大宮商店街)
 - ・新京極商店街
 - ・男山中央センター商店街
- ◆ 対面での活動に加えて、SNSを活用した商店街の広報を行うなど、対面・オンライン両方に対応
- ◆ 参加学生の活動に係る交通費の補助を開始
- ◆ 「学生×地域つながる未来プロジェクト商店街編」のホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/r4_1.html

スライド20

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
(令和4年度)

一緒に創ろう！
地域のすてきなコミュニティ！

- ◆ 53名の大学生と11の地域活動団体が活動中
- ◆ 対面での活動がメイン
- ◆ 京都府があまり介入しなくても、団体と大学生の関係性の構築がうまくいっているチームが多数

スライド21

「学生×地域つながる未来プロジェクト」での活動紹介
(令和4年度)

- ◆ 令和4年度のホームページ
https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/r4_1.html

スライド22

参加した大学生の活躍(成果)

1. 本プロジェクト終了後も地域活動団体のもとで活動を継続！
2. 複数年度にわたって本プロジェクトに参加し、参加2年目からはチームのリーダーとして地域活動団体・大学生・京都府の架け橋に！
3. 新たな地域活動団体を設立し、本プロジェクトの受入団体に！
4. 地域での学びを活かして社会に！
5. 本プロジェクトでの経験と大学での学びを繋げて研究・考察！

スライド23

本プロジェクト終了後も地域活動団体のもとで活動を継続！
(参加した大学生の活躍①)

白川まちづくり協議会 (CoCoしらかわ) チーム

- ◆ 令和2年度に本プロジェクトを通して活動に参加した大学生が、本プロジェクト終了後も団体のメンバーとして活動を継続

スライド24

複数年度にわたって本プロジェクトに参加し、参加2年目からはチームのリーダーとして地域活動団体・大学生・京都府の架け橋に！
(参加した大学生の活躍②)

京都大学4年生 森下 航平さん

- ◆ 令和2～4年度に「NPO法人丹波漆」チームとして本プロジェクトに参加
- ◆ 森下さんへのインタビューHP
 - > https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/r3_houkoku.html#morishita
 - > https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/gakusei_interview.html

スライド25

複数年度にわたって本プロジェクトに参加し、参加2年目からはチームのリーダーとして地域活動団体・大学生・京都府の架け橋に！
(参加した大学生の活躍②)

- ◆ 令和3年度(参加2年目)からは、チームのリーダーとして、京都府・地域活動団体と協働し、「NPO法人丹波漆」チームの活動をプロデュース
- ◆ 地域活動団体と大学生の主な連絡役を担う。
⇒ リーダーの大学生の積極的な働きかけや意欲、大学生目線での多様なアイデア・提案が一つの決め手となり、「NPO法人丹波漆」は本プロジェクトへの継続参加を決定
- ◆ 令和3年度には多くの人が丹波漆について考える契機となるよう、チームで「丹波漆を考えるアイデアブック」(左下の画像)を作成

▶ 「丹波漆を考えるアイデアブック」PDF
<https://www.pref.kyoto.jp/chiiikokyo/gakusei/documents/ideabook.pdf>

スライド26

大学生が新たな地域活動団体を設立して本プロジェクトの受入団体に！
(参加した大学生の活躍③)

3upS (サブス)

- ◆ 令和2年度に「森へのパスポート」チームとして本プロジェクトに参加した大学生2名が、活動時に訪れた新大宮商店街に関心を持ち、その魅力発信を行う任意団体を設立
- ◆ 商店街紹介ツアー等のイベント開催やInstagramでの商店街内店舗の紹介等を実施
- ◆ 令和3年度と商店街編では受入団体として、本プロジェクトに参加
- ◆ 商店街編では次期担い手募集を行い、新たに仲間となった学生と一緒に活動中

スライド27

地域での学びを活かして社会に！
(参加した大学生の活躍④)

同志社大学4年生 野末 涼音さん

- ◆ 令和2年度に「花背ワンダーランド実行委員会」チームとして本プロジェクトに参加
- ◆ 本プロジェクトで得た地域との関わり方や経験を活かして、地元の行政職に就職予定
- ◆ 野末さんへのインタビューHP
https://www.pref.kyoto.jp/chiiikokyo/gakusei/gakusei_interview2.html

スライド28

地域での学びを活かして社会に！
(参加した大学生の活躍④)

- ◆ 地域の活性化に興味を持ったのは、高校生のときに受けた授業「地域課題について調べて市議会で提案し、市議会議員からフィードバックをもらう」という授業があった。
- ◆ 本プロジェクトでの活動終了後、書籍で「本当に地域住民は地域活性化を望んでいるのか」という問いを見て、実際に地域住民の声を聴くことの大切さを感じた。
- ◆ 大学生が地域活動に参加することで、地域住民や地域活動団体では気づかない「第三者の視点」で地域を俯瞰することができると思った。

スライド29

本プロジェクトでの経験と大学での学びを繋げて論文作成！
(参加した大学生の活躍⑤)

- ◆ 大学で学んだ知識や技術を活かして地域活動に取り組み、活動を通して感じたことや経験を活かして大学の論文作成や研究を行うという、**大学での学びと地域活動を相互に活かすサイクル**を生み出すことに成功した大学生が複数育っている。

スライド30

参加した地域活動団体からの声

- ◆ 今まで学生の受入について考えたことがなかったが、本プロジェクトへの参加を機に**学生ボランティアの受入体制構築に向けて検討してみよう**と思った。
- ◆ 若い大学生が活動に参加することで、団体のメンバーをはじめ地域住民の方々がとても喜ばれる！**活動が活気づく！**
- ◆ 自身の団体が苦手としている**SNSでの発信**を大学生に担ってもらえて、幅広い層に活動を知ってもらうことができた。
- ◆ **大学生の目線で自身の団体の活動を振り返ることができた。**
- ◆ ボランティアという災害時のお手伝い等、「受入先の指示のもと無償で従事してくれる人」というイメージがあったが、本プロジェクトに参加して、**ボランティアの方も「一緒に協働して地域の課題を解決していく仲間」だという意識が芽生えた。**

スライド31

多様な主体と協働する上で大切にしていること

1. 対話と協働

2. 一緒に創る

31

スライド32

多様な主体と協働する上で大切にしてきたこと①
「対話と協働」

学生×地域つながる未来プロジェクトは、地域活動団体、大学生、京都府など多様な主体が関わり合うプロジェクト。

まずは様々な人と対話して、自分たちとは異なる立場・年代の主体でも、その考え方などを理解しようと努める！

「対話」を大切に！

32

スライド33

多様な主体と協働する上で大切にしてきたこと①
「対話と協働」

- ◆ 「協働」とは、共通する目標に向かって複数の人々が力を合わせて協力しながら働くこと。
- ◆ 多様な主体が対等な目線で意見を述べ、尊重し合う。
- ◆ 参加者全員が主体的に意見・活動する！
誰もが本プロジェクトの「主人公」！

全員が対等な目線で「協働」することを大切に！

33

スライド34

多様な主体と協働する上で大切にしてきたこと①
「対話と協働」

立場や年代の異なる地域活動団体と大学生が協働することで今までなかった発想が得られて、互いにとってプラスになる！

協働することで相乗効果が生まれる！

34

スライド35

多様な主体と協働する上で大切にしてきたこと②
「一緒に創る」

- ◆ 京都府だけでプロジェクトを企画せず、大学のボランティアセンター等にヒアリング
- ◆ 本プロジェクトの活動が始まってからも、参加している大学生や地域活動団体の意見・ニーズを聞いて、日々プロジェクトを改良

みんなで創るプロジェクト

35

スライド36

多様な主体と協働する上で大切にしてきたこと②
「一緒に創る」

- ◆ 本プロジェクトでの活動を通して生まれた「芽」を大切に
 - 「3upS」設立に当たっても大学生から京都府に相談があった。本プロジェクトには大学生の地域活動団体設立を支援するスキームはなかったが、本プロジェクトの受入団体になってもらうことで、京都府が伴走支援
 - 本プロジェクト内で意欲的に活動する大学生を発見！次年度以降、チームのリーダーをお願いして、より主体的に活動してもらえるようにサポート（京都大学 森下さん）

小さな芽でも大切に见守り育てることで予想もしていなかった物語が生まれる！

36

スライド37

地域活動と「大学での学び」

「大学での学び」と地域活動の共通点は意外と多い！

こういふ条例を作ったら、「シャッター商店街」が減るんじゃないかな？

人が商店街に来なくなる心理って何だろう？

マーケティングの知識を活かして考えてみよう！

法学部 心理学部 経営学部

スライド38

地域活動と「大学での学び」

レジ袋有料化が義務付けられたからレジ袋のゴミは減った気がするなあ

「割れ窓理論」から考えると、川を綺麗にしておくゴミを捨てる人が減るんじゃないかな？

この間の環境学の授業で習った「マイクロプラスチック」ってこうやって発生するのかな？

スライド39

地域活動と「大学での学び」

大学での学び

地域活動

地域活動と「大学での学び」がうまく循環すると
思わぬ相乗効果生まれる！

39

スライド40

地域活動と「大学での学び」 (事例①)

【 京都大学 総合人間学部 4 回生 】の場合

- ◆ 「NPO法人丹波漆」チームに所属
- ◆ 大学の講義で学んだ「根本問題の考え方」の知識を活かして、丹波漆の今後の在り方を考える根本的な問いを含む、「丹波漆を考えるアイデアブック」を作成
- ◆ 地域活動の経験やアイデアブックの作成を通して感じたことを大学の論文にまとめた。

40

スライド41

地域活動と「大学での学び」 (事例②)

【 同志社大学 政策学部 4 回生 】の場合

- ◆ 「花背ワンダーランド実行委員会」チームに所属
- ◆ 過疎地域における活動での経験などを活かして、大学で研究対象としている「商店街活性化における学生団体の可能性」に関する論文を執筆
- ◆ 地域住民との触れ合い等を通して、「地域活性化」について問うきっかけになった。

41

スライド42

地域活動と「大学での学び」 (事例③)

【 南山大学 人文学部 4 回生 】の場合

- ◆ 「NPO法人丹波漆」チームに所属
- ◆ 「NPO法人丹波漆」チームで伝統文化の継承活動に実際に携わることで、大学で研究対象としている「これから若者が地域文化とどう携わっていくか」について論文を執筆予定

42

スライド43

地域活動と「大学での学び」

「大学での学び」を活かして様々な視点で
「地域」を見ることができれば
これまで見てきた世界とは違う世界が見えるかも！？

スライド44

大学卒業後も地域とつながり続けてもらえるように…

大学生が卒業後も地域と関わり続けられるような
仕組みを構築予定

- ◆ 京都への愛着を持ち続けてもらう
- ◆ 地域活動への参画促進

スライド45

(参考) 関連ホームページ・SNS

- ◆ 「学生×地域つながる未来プロジェクト」メインホームページ
(メインホームページから各年度のプロジェクトに係るホームページへリンク可)
<https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/gakusei/chiiki.html>
- ◆ 「学生×地域つながる未来プロジェクト」Twitter
<https://twitter.com/gakuseichiiki>
- ◆ 「学生×地域つながる未来プロジェクト」Instagram
<https://www.instagram.com/gakuseichiiki/>
- ◆ 「学生×地域つながる未来プロジェクト」Facebook
<https://www.facebook.com/gakuseichiikikyoto/>
- ◆ 「地域交響プロジェクト」ホームページ
<https://www.pref.kyoto.jp/chiikikokyo/index.html>

スライド46

ご清聴ありがとうございました！